



小手中魂

合言葉「**チーム小手指**」とは
情熱・授業力・社会性を持ち、生徒を
第一に考える教師集団のこと



所沢市立小手指中学校 校長 結城 尊弘 令和8年6月1日発行
【生徒数：1学年232名 2学年198名 3学年188名 8組16名 合計634名】

5/11 講演会 慶応大学 大木聖子先生 「学校運営協議会と共に進める防災教育」

【要旨抜粋】今回の講演会は学校運営協議会委員、保護者、地域の方々、小中学校の教職員、本校中学生が大木先生の講演を聞き、同じ認識に立ち、目指すベクトルが同じ方向に向かって、命を守る最先端の防災教育を進めていくことに価値があります。



大木聖子先生

1. 日本の学校で起きうる地震の現実

マグニチュード7級の直下型地震は日本のどこでも起こりうる。強い揺れは突然発生し、約10秒続く。停電が起き、校内放送が使えなくなることが多い。建物倒壊による圧死が主な犠牲原因だが、学校は耐震化が進み、倒壊例はゼロ（「阪神・淡路大震災以降、学校校舎の崩壊は皆無」）。

2. 倒壊しない学校でも危険は多い（学校は耐震強度が1.25倍）

非構造部材（外壁・内壁・照明・ガラス）が落下する。渡り廊下や校舎接合部（エクスペンションジョイント）は損壊する設計であり、避難ルートとして危険（「敢えて損壊させることで建物全体の倒壊を防ぐ」）。教室内はガラスや物品が散乱し、移動が困難になる。

3. 過去の地震で子どもたちに実際に起きたこと

資料には多数の教員手記が引用されている。恐怖で動けない、泣き叫ぶ、過呼吸が伝搬する。余震で嘔吐、校外へ逃走する児童生徒も。停電で指示が届かない。避難中の転倒・骨折。「廊下・階段は真っ白にほこりが立っていた」「天井が落ち危険な状態」などの描写。

4. 現行の避難訓練の問題点（避難訓練の見直し、小中合同引き渡し訓練の重要性）

多くの学校で「校庭に出ること」が目的化している。しかし、実際には余震、停電、けが人発生が高確率で起きるのに、訓練では想定されていない。訓練では起きないことになっている。

5. 発災時の初動（フェーズ1～3）

初動を3段階に整理している。

●フェーズ1：重症者の把握（最優先）

歩けない・意識がない児童生徒を最優先で対応。※**トリアージ**順で報告。

●フェーズ2：全員の安否確認

全クラスが教室に戻り人数確認。不一致の場合は搜索。

●フェーズ3：引き渡し開始 保護者対応はフェーズ3以降。

ここが曖昧だと混乱し、過去の災害では判断遅れが犠牲を生んだ（大川小学校の例に言及）。

トリアージとは、災害で多数の傷病者が出た際、重症度・緊急度に応じて優先順位を決めること。



CS会議の様子

6. 教職員・保護者・地域の役割

発災後30分は教室又は校庭待機。避難所開設は地域主体で行う。PTAは保護者の校庭待機管理を担うなど、役割分担が必要。

7. 探究型避難訓練の重要性

余震・停電・けが人・情報錯綜など「現実にかかること」を訓練に組み込む。子どもと教員が協力し、状況を判断しながら行動する力を育てる。防災マニュアルは「永遠に完成しない」もので、訓練のたびに更新する。

◆ まとめ（講演の核心）

学校は倒壊しない。しかし“安全ではない”。だからこそ、余震、停電、けが人、情報混乱、危険な避難ルートといった“実際に起きること”を前提にした訓練が必要。そして防災教育の目的は、「自ら考え、共に生き抜く力」を育むことである。とのご講演をいただきました。

【令和8年度委員の皆様】★委員長 敬称は略させていただきます。

（小手指小）宮寺敏雄 野口宏之 大西ゆかり 小暮勝彦 白石典子 村岡格

（上新井小）鹿島宗男 関根裕子 鳥居八千代 福良幹夫 渡邊五希子

（小手指中）★森野良仁 山崎雅弘 嘉松美香 野畑聡志 岸川美奈子



森野愛校会会長挨拶

5月27日 全校朝会 SC講話 心のエネルギープロジェクト「友だちの変化に気づいたら」

心のエネルギープロジェクト

『友だちの変化に気づいたら』

小手塚中学校 スクールカウンセラー
深瀬 遥人



声かけのポイント

- ・決めつけないことが大切
- ・自分のことも少しだけ混ぜてみよう
- ・すぐには話せないことがあるよ
- ・どう声かけて良いか迷ったときは周りの力も頼ってね
- ・つらい時わざと乱雑に振る舞う人も

暴力やいじめはもうどうしたらなくなる？

- ・大人はどうやって解決しようとしているの？
- ・作戦が大事。ニュースを見てみよう
- ・社会や国語、勉強が役に立つ
- ・ひとり考えない！

周りの友だちを助け、一緒に平和な世界を作る「仲間」になってほしいというメッセージです。

1 悩んでいる友だちへの話し方のコツ

友だちに声をかけるのは勇気が要ります。相手が話しやすくなる3つのポイントを意識しましょう。①決めつけない:声のかけ方で誤解を生まないようにする。②自己開示をする:「私も元気がない時は……」と自分の話を少し混ぜてみる。時間を空ける:すぐには話せないこともあるので、焦らず待つ。③相談先を思い出す:先生や相談室、信頼できる人に頼ることも大切。

2. 暴力では何も解決しない

いじめや戦争など、大人も暴力のない世界を日々考えています。暴力に暴力でやり返しても、恨みが残り、争いが繰り返される。戦争の後に残るのは、家や家族、友だちを失う悲しみだけである。

3. 勉強(教科)の中に解決のヒントがある

暴力以外の方法で平和を守るヒントは、授業の中にあります。社会(歴史):過去の人間が戦争を起こさずにどう問題を解決してきたかのヒントがある。国語:話し合いで解決するための「交渉力」が身につく。理科:他の生き物が自分たちを守るための「生存戦略」が学べる。英語:異なる宗教や考え方を持つ人と関わる「異文化理解とコミュニケーション」が学べる。

【まとめ】大人も話し合いを続けています。暴力ではなく「話し合いや知恵」で問題を解決し、平和を作っていく大人になるために、私たち大人と一緒に考え、行動する仲間になりましょう。



5/11 生徒総会 成すことによって学ぶ Learning by Doing

生徒総会、大変お疲れさまでした。特に良かった点を3点お伝えします。

1点目は、学年が変わり、新たに前面に立つ生徒の皆さんが増えてきたことです。これまで経験の少なかった生徒も、役割を担い、自分の言葉で堂々と発言する姿が見られました。力ある生徒が着実に育っていることを感じました。

2点目は、634名という大きな集団でありながら、落ち着いた雰囲気の中で生徒総会を運営できたことです。話を聞く姿勢、拍手、反応など、生徒たち一人一人が「みんなで創る」という意識を持って参加できていました。

3点目は、生徒の皆さんが積極的に参加し、多くの生徒の皆さんが登壇し、質疑・意見発表を行う経験の場があることが素晴らしいと思います。学校は、一部の生徒だけが活躍する場ではなく、挑戦する機会を広げる場です。今日の経験が次の挑戦につながっていくはずです。みんなで決めたことをみんなで実行しましょう。



生徒総会の様子

本校の先輩が教育実習生として帰ってきました！3週間よろしくお願ひします。

【深瀬 遥人 先生 保健体育 元陸上部】

実習を通して教師という仕事の責任とやりがいを実感し、将来誰からも信頼される教員になれるよう成長できる3週間にしたいと考えています。

【三橋 陽菜 先生 英語 元陸上部】

授業中はもちろん休み時間や様々な場面で積極的にコミュニケーションを取り、生徒の立場に立って物事を考える姿勢を意識していきます。



PTAより全生徒分の5年保存水とアレルゲンクッキーを用意していただきました

PTA 予算より、災害発生時震度5弱以上の地震が発生した場合、学校に留め置き引き渡しとなります。その際の全生徒各1食分を準備いただきました。

